



学びの同伴者

教 頭

私が小学生だった昭和には総合的な学習の時間（以下、総合学習）はありませんでした。小学校の教育課程に総合学習が導入されて今年で21年が経ちました。一昨年度、高校では「探究の時間」が正式な科目になりました。さらには、教育先進地域と言われている渋谷区では、今年度から教科学習を1割減らし、総合学習の時間を倍増させて年間150時間の探究プログラムに取り組んでいます。なぜ、今、総合学習や生活科が見直され、重点的に取り組もうとする学校や自治体が増えているのでしょうか？

申し遅れました、教頭です。今回の「総合学習・生活科号」の巻頭言を書くことになりました。手前味噌ですが総合学習を専門としています。笹口小に赴任する前は高学年を主に担任し、様々な総合学習の授業実践をしてきました。学校の裏庭に半年かけて堅穴式住居を作って縄文生活をしたり、多くのイベントに参加しラップミュージックで町の活性化をうたったり、にいがた総おどりに出てそこに携わる方の思いや考えにふれたり、「教科書のない教科」である総合学習を、子どもと一緒に楽しんできました。卒業文集に「まちづくりに関わる仕事がしたい」と書いた教え子が、大学で地域創生を学んでいるという知らせを聞き、小学校での総合学習の経験が子どもの胸に刻まれていることを嬉しく思ったりもしています。

AIの台頭など、社会変化のスピードはますます加速しています。子どもたちが学校教育を終えて社会にひとたび出た途端、教科書のような「整った問題」ではない様々な困難な課題が待ち受けています。しかもそれを1人の力ではなく、年齢や国籍、言語等、異なる立場の人々と協働・解決して乗り越えていかなければなりません。教科の学習で習得した知識や技能を活用し、自らの興味や問題意識を原動力に友だちと課題解決をしながら、自分の考えを深め他者にアウトプットする。いわゆる「探究の過程」を子どもたちが経験する場を保障することが総合学習の大きな役割と言えます。

しかし、総合学習が見直されている理由はそれだけではないと私は考えています。子どもと教師とがフラットな立場で「未知」を学び、試行錯誤しながら0から「創出」する経験のできる教科、言い換えれば、教師と子どもが「学びの同伴者」となり、互いに成長できるのが総合学習なのです。総合学習の教科書は、子どもや大人の目の前にある地域や社会です。そこに飛び込み、新たなことを知る喜びを共有し、自らが主体となって社会や地域に参画・貢献する経験は、何年経っても剥がれ落ちることのない創造的知性となります。体験を重視する生活科も然りです。AIが様々な人間の役割に取って代わってたとしても、自分がどんな国や地域で暮らしていようとも、自らの力で環境や物事をよりよくつくり変えながら、たくましく生き抜こうとする力、その素地が総合学習や生活科で育まれると私は考えています。

では、今年の笹口小の子どもたちはどんな創造的な学びを繰り広げてきたのでしょうか。その一端を紹介します。

生活科や総合的な学習の時間を振り返って 子どもたちが自分の成長を確かめました。

1年生 生活科「わたしのはな」「いきものとなかよし」

アサガオの栽培やモルモットの飼育を通して、生き物の成長に関心をもったり、生命の大切さを実感したりする活動です。

1年生 (動物病院の院長先生からモルモットについてのお話)

パコちゃんをさわったらわたみたいにふわふわしていました。パコちゃんにながいきしてもらいたいきもちでそだてます。

1年生 (アサガオを育て、ボランティアさんとリースを作りました)

くきをみるとふさふさしています。さわってみるとちくちくしていました。いっぱいみずをあげてはやくさかせたいです。もうすぐさきそうです。



2年生 生活科「ぐんぐんそだて わたしのやさい」

一人一鉢でミニトマトを育てたり、協力して畑でサツマイモを育てたりして、よく育つための工夫について考え、秋においしく調理していただくことで、作物を育てる苦労やよさを実感する活動です。

2年生 (スイートポテトづくり)

きょうスイートポテトを作りました。まずもみもみしてなめらかにぎゅうにゅうを入れてもみもみしました。形を作る時、細くしました。オープンでやいた時できるのがまちどおしかったです。食べるのが楽しみです。



2年生 (スイートポテトづくり)

やきいもがほくほくでおいしかったです。ぼくは、はじめて食べたスイートポテトにぎゅうにゅうが入っていて、あまくて、おいしかったです。やきいもを2つとって食べたけどおなかがいっぱいでした。やきいももスイートポテトも食べられてうれしかったです。

3年生 総合学習「笹口のひみつ発見」

地域の歴史をよく知る人である「笹口名人」から話を聞いたり、まち探検をして地域の「お宝」を探したりしながら、地域への理解と愛着を高める活動です。新しくなった JR 新潟駅の方から話を聞いたり駅を見学に行ったりすることで、地域の「未来」についても考えを深めています。

3年生 (地域をよく知る方から学んだこと)

笹口の昔の様子を教えてくださいました。すごいなと思ったことは、海でじゅぎょうをやっていたことです。思ったことは「田んぼでスケートをするなんてだれがかんがえたのだろう」ということです。おどろいたことはテレビがなかったことです。そのかわりにラジオがあったので、少しほっとしました。今みたいにゲームがなく、友だちとそとであそんでいたことに少しびっくりしました。



3年生 (JRのみなさんから学んだこと)



笹口小学校は153年前にできたけれど、えきは120年前につくられたのがわかりました。えきはリサイクルをしているとしました。タブレットで紙をへらしたり、キップをリサイクルしてトイレットペーパーを作ったりしているのがわかりました。えきの人たちは、お客さんに「ありがとう」「たすかったよ」など言われるのがうれしいことがわかりました。これからは、えきに行ったらはなしかけたりしてみたいです。

4年生 総合学習「笹口子ども防災宣言」

能登半島地震をきっかけにして、災害に備えて自分に何ができるかを問い直し、地域の防災の状況を調べたり、学んだことを発信したりすることを通して、自助と共助についての考えを深める活動です。



「災害から命を守るために大切だと思うこと」について、学習での経験を通して、自分の考えをもちました。

子どもから出された考えの一部

- 相手の気持ちを考えること
- 前もって準備をすること
- 自分の住んでいる場所を知ること
- 家の中をきれいにする
- 理解力

4年生

私は「協力や人と気持ちなどを合わせたりすること」が大切だと思いました。なぜなら、避難所シミュレーションや、親子で学ぶ防災教室のドローイングチャレンジなどは、みんなと気持ちを合わせなかったらできなかったからです。炊き出し体験も協力しないと難しいと思いました。



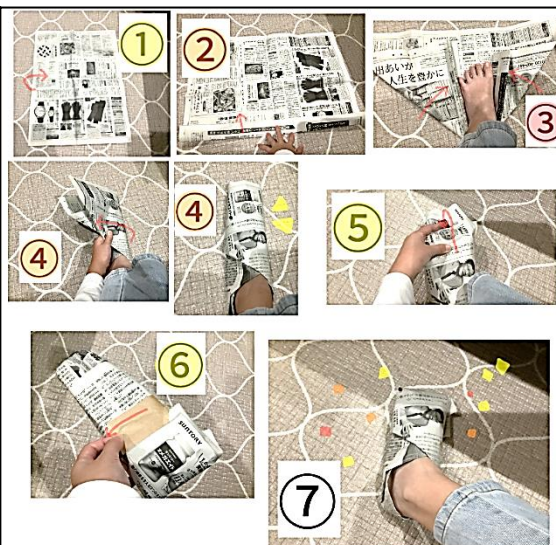
「災害時用新聞紙スリッパ」

このスリッパは、暖かく、避難した際に裸足などの時に活躍します。落ちてくる物(画紙などの針がある物)から足を守ります。コンパクトで、持ち運びも楽です。身近な材料で作られて、しかも簡単なので、是非作ってみてください。

用意する物:ガムテープ、新聞紙(二枚)

難易度
 →簡単
 →普通
 →難しい

- ① 新聞紙を用意します。そして半分に折り、横向きにおきます。
 - ② 次に、新聞紙の上に自分の足を乗せます。乗せたら、踵の部分を大体5cmくらいに折ります。(位置は半分よりやや下が良いです。)
 - ③ そしたら、自分の足に合わせて壁を作るように、新聞紙を折ります。
※左右両方やってください。
 - ④ ③で左右に余った部分が出るので、右なら左、左なら右に折ってください。
※これも両方やってください。
 - ⑤ 終わったら、つま先の部分が長いので、そこを下に折り込みます。
 - ⑥ ここまで来たら、足は外しても大丈夫です。新聞紙スリッパの裏側をみて、⑤で折り込んだ部分が固定出来ないので、ガムテープで止めます。
 - ⑦ もう一つ、逆の足用の物を作ります。
- 完成!



感想・これを見る人へのメッセージ

僕はこれを作って履いてみて、暖かく、安心・安全なので、作り方を覚えながら作ってくれば良いと思います。これで命が守れるかもしれないですし、お手洗いにいく際もこのスリッパを履いていけば、スリッパが清潔を保ってくれます。なので、これを作って、避難生活で少しでも安全に過ごしていただきたいです。



4年生

地域の自主防災訓練で配布した「災害時用新聞紙スリッパの作り方」の説明書

5年生 総合学習「電車でGO」

縦割り遠足の行き先について、安全に楽しくお出かけできる市内の公園や施設はどこがよいかを調べ、実際に出かけて確かめ、全校にプレゼンする。その過程を通して、地域のことをより詳しく知るとともに、地域への愛着や社会性、相手意識を高める活動です。

5年生 (全校遠足の行き先提案に向けて)

新潟の良いところとして、亀田公園を紹介したいです。亀田公園は遊具もあり、自然を感じられるし、濁川公園よりは近いところがあるので行きやすいと思います。芝生もあっていろんなことが楽しめそうです。でも、水や大きい石があり、低学年にとっては転んだら結構危険だと思います。高学年の人達がいつも一緒に行けば、少しは安全だと思います。結論は班のみんなで行動すれば、全校遠足の行き先としても良いと思います。班のみんなに私が行って良いなと思ったところを紹介したいし、自然を感じてもらいたいからです。



5年生 (全校遠足の行き先提案に向けて)

全校遠足のコース提案に向けて実際に行ってみて、亀田公園は池や川があって落ちたらぬれてしまうけれど、ベンチや日かげがあって、休むところがたくさんありました。濁川公園はとても広くて大人数で遠足に行っても良いと思いました。けれど、川があって危ない事や1・2年生は新崎駅から遠いので低学年は疲れてしまうかもしれないと思いました。また、このコースでは、住宅街などで人に会ったら、知らない人でもあいさつをした方が良いことがわかりました。

6年生 総合学習「大好きにいがた～光のページェントを成功させよう～」

光のページェント点灯式に参加することを通して、まちを元気にするために活動している人々の願いや考えにふれるとともに、よりよいまちづくりのために自分たちに何ができるかを考え、形にすることで、地域社会の一員としての自覚とよりよい社会づくりへの意欲を高める活動です。

6年生 (光のページェント)

光のページェントの準備をするときに気をつけたことは、練習で接客するときは本番のように笑顔でやったり、星を作るときは、一つ一つ丁寧に作ったりしたこと。光のページェントは全校だけでなく、校区外の人や、笹口小学校の親たちなどが来るので、一切気を抜かず真剣に取り組みました。発見した友達の良いところは、食品販売の練習での友だちの行動です。その子は、入れ替わりの時に左に一歩歩き、



スムーズに立ち位置を変えたり、計算をするときに私が紙に書く前に素早く計算したりしていました。そのような行動は、本番の狭めのテントでとても活躍していました。友だちが計算の係でよかったです。私は、このような食品販売の練習で、接客の大変さを感じました。声が小さい人や、注文を言うことがとても速い人もいました。それでも、他の人と助け合うことでミスを減らしていくことができました。やっぱり仲間がいるのはとても心強かったです。

